

単施設研究用

研究課題名：びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫における c-myc, bcl-2, bcl-6 発現様式の予後に対する影響についての後方視的解析研究

1. 研究の対象

2014年1月1日から2023年3月31日までに、当院にて悪性リンパ腫、びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫と診断された方

2. 研究目的・方法・期間

・研究目的、方法

悪性リンパ腫の中で、びまん性大細胞型 B 細胞性リンパ腫(DLBCL)は約 30～40% を占める組織型です。近年その中でも腫瘍細胞に発現している組織抗原によってより詳細なサブタイプの分類がなされ、治療の効き具合や治療法、治療成績に違いがあることがわかっています。

その中でも病理組織標本での免疫染色において c-myc と bcl-2 が発現している Double expressor lymphoma (DEL)や c-myc, bcl-2, bcl-6 がいずれも発現している Triple expressor lymphoma (TEL)は通常の DLBCL に対する標準療法である R-CHOP 療法を行っても治療成績が良くないことがわかっています。しかし、DEL、TEL に関しては治療強度を強めた化学療法を行ったところで、これまでに若年者に対しての有効性に関してはいくつか報告があるものの、詳細は明らかになっておらず推奨されている治療法はまだ定まっていないのが現状です。そこで、今回当院で悪性リンパ腫の中で DLBCL と診断された患者さんを対象に組織型を確認し、DEL・TEL に分類される方々の治療法や治療効果、その他の発現マーカーを調べることで今後のより良く効果的な治療法選択が行えるように改善していきたいと考えます。

・研究期間 臨床研究倫理審査委員会承認日 ～ 2026年3月31日

3. 研究に用いる試料・情報の種類

年齢、性別、身長、体重、診断名、組織型、病期、血液検査結果(白血球数、赤血球数、Hb、血小板数、可溶性 IL-2 受容体値、LDH)、病理組織標本での免疫染色(c-myc, bcl-2, bcl-6, CD5, CD10, MUM1, Ki-67, EBER, EBV-LMP1)、FISH (c-myc, bcl-2, bcl-6)、CT・PET-CT での画像結果、病歴・治療歴(治療内容、治療効果、薬剤投与量)、再発日時、幹細胞移植の有無、カルテ番号(情報管理に使用)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

《照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先》

連絡先：〒849-8501

佐賀市鍋島5丁目1番1号

佐賀大学医学部附属病院 血液腫瘍内科

電話番号：(0952)34-2366 (場所 血液腫瘍内科医局)

担当：助教 板村 英和

《研究責任者》

佐賀大学医学部附属病院

血液腫瘍内科

研究責任者： 教授 木村 晋也

【この研究での検体・診療情報等の取扱い】

倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、お預かりした検体や診療情報等には匿名化
処理を行い、ご協力者の方の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたう
えで取り扱っています。

このお知らせは当院臨床研究倫理審査委員会承認日より2026年3月31日までの間、研
究対象となる患者さんへの公表を目的に、佐賀大学医学部附属病院臨床研究センターホー
ムページで掲載しているものです。

臨床研究センターHP <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/chiken/>

なお、この研究内容は、佐賀大学における所定の委員会で審査を受け、承認されたもので
す。臨床研究センターHPでは、佐賀大学医学部附属病院臨床研究倫理審査委員会に関する
他の情報等も公表していますのでご覧下さい。